

緩和ケアニュース

第27号

特集：早期から関わる緩和ケア



2012年6月発行
財)倉敷中央病院
緩和ケアチーム

医師の紹介

4月から、緩和ケアチーム専従医として國末先生が着任されました。國末先生は3月までホスピス病棟で研修しておられました。先生は研修での様々な学びの中で、特に「ホスピスマインド」を教えられたと話しておられました。

今号の緩和ケアニュースは國末先生より、「早期から関わる緩和ケア」と題してご自身経験を通じて、緩和ケアにおける大切なことをお話いただきます。



早期から関わる緩和ケア

毎日、多くの患者さんが、がんの治療を目的に通院されています。数ヶ月に1度でも主治医の先生の顔をみると安心される、という方もたくさんいらっしゃると思います。しかし、今まで健康なときには気にも留めなかった痛みでも「がんが悪化あるいは再発しているのではないかと不安になられたり、「今後、どうなっていくのだろう」と考えると眠れなかったりと、治療以外にさまざまな“つらさ”を感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そういった“つらさ”を主治医の先生に外来で相談したいけれども忙しそうにされているし、それを誰に相談すればよいのかわからない、という方の声も聞かれます。そういう方のために緩和ケアはあります。

ただ、残念なことにまだまだ緩和ケアと

いうのは「終末期」のイメージが強く、「あそこに行けば、もう死ぬしかない」みたいな印象をもたれている方も多いかもかもしれません。これは、がんと診断されて、手術や化学療法などの治療を行い、もう手の施しようがなくなってしまった場合に緩和ケアという治療の流れがあったために、「緩和ケア」＝「終末期」のイメージが強くあると思われれます。しかし、今ではがんと診断されてから、治療と並行してすぐに緩和ケアを受けることができます。

実際、治療目的で入院されている患者さんのところに、緩和ケアチームが介入することがしばしばあります。緩和ケアチームとは、院内の医師、看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士など多職種で構成されたチームで、患者さんのがんに伴う症状を取り除くことを目的として活動しています。がんの症状は、身体的なものだけでなく、気持ちの“つらさ”など精神的なものもありますので、多職種で介入していきます。また、水曜日の午後から緩和ケア外来もあり、受診していただくことができます。このように緩和ケアは終末期だけではなく、早期の段階から関わっていくことで、患者さんの様々な“つらさ”を取り除いていきます。たとえ、がんと診断されたとしても、その人がその人らしく生きていくためのサポートを重視しているのが緩和ケアです。

私は医師になってから9年間、外科医として働いていましたが、昨年4月から1年間、東京にある桜町病院・聖ヨハネホスピスで研修を行って参りました。そこでは、積極的な治療を望まれず、ホスピスをご自分やご家族で選択された方が入院されていました。折りたたみのベンチ(椅子)を持ち歩き、患者さんの目線に合うようにベッドサイドに腰掛けて、お話を聴く診療スタイルでした。痛み、吐き気、倦怠感など

がんに伴う様々な身体的な症状を取り除く方法を学んだだけでなく、「何のために生きているのだろう」、「もう、早く終わりにしたい」といった患者さんの気持ちのつらさにも向き合っただけでなく、「何のために生きているのだろう」、「もう、早く終わりにしたい」といった患者さんの気持ちのつらさにも向き合っただけでなく、最も重要な学びは「患者さんの価値観に寄り添う」という「ホスピスマインド」でした。患者さんの価値観を大切にすることは、どういう状況にあらうともその人がその人らしく生きることにつながっていくと思います。また、しばしば患者さんにとって「よい」と思うことを医療者の価値観で提案しますが、患者さんはそれを喜ばれるかもしれませんが、逆に不安を感じられるかもしれません。そこを確認せずして押し進めるのではなく、一緒に考え、患者さんの価値観や思いを理解していき、選択していただくことに重きを置いていました。もちろん、選択が難しい場合には、こちらに任せていただくこともありました。患者さんやご家族で納得して選択していただくことで「ああしてあげればよかった」というような患者さんやご家族の「後悔」が少しでも軽くなっていくのではないかと考えています。

終末期だけに限らず、がんと診断された患者さんすべてにホスピスマインドは当てはまると思います。患者さんの人生が少しでも幸せになるお手伝いができる、と願ってやみません。



緩和セミナーのお知らせ

第16回倉敷緩和ケアセミナーを平成24年8月4日(土)に開催することが決定いたしました。会場は当院の大原記念ホールで行う予定となっております。講師にはホスピスケアの必要性を説きベストセラーになった小説『病院で死ぬということ』の著者でもあり、緩和医療に先駆的に取り組んでこられたケアタウン

小平クリニックの山崎章郎先生をお招きしご講演いただきます。緩和ケアに携わる方々だけでなく、多くの皆様のご参加をお待ちしております。尚、事前のお申し込みは不要ですが資料に限りがございますのであらかじめご了承ください。

第16回緩和ケアセミナー

平成24年8月4日(土)

14:00~15:00 大原記念ホール

「緩和ケアのめざすもの

-ケアタウン小平の取組み」

ケアタウン 小平クリニック

山崎章郎先生

倉敷中央病院 がんサロン

がんばりすぎないで、肩の力を抜いて

ほっ と一息ませんか。

倉敷中央病院では、がんサロンを偶数月の第3水曜に行っています。がんの種類などは問わず、当院にかかっておられる患者さんにご家族であれば参加いただけます。

いっしょにお茶でも飲みながら、おだやかな時間を過ごしましょう。

原則として事前申し込みをお願いしていますが、当日の参加も可能です。

~今後の開催予定~

第12回がんサロン

平成24年8月22日(水)

10:00~11:30 外来棟3階第1会議室

事前申し込み・お問い合わせ

がん相談支援室 086-422-5063

*8月は第3水曜がお盆のため第4水曜となっておりますので、ご注意ください。

当院の緩和ケアについて



緩和ケアとは、命を脅かす疾患による問題に直面している患者のみなさまやご家族のつらさを和らげ、その人らしさを大切にする考え方です。

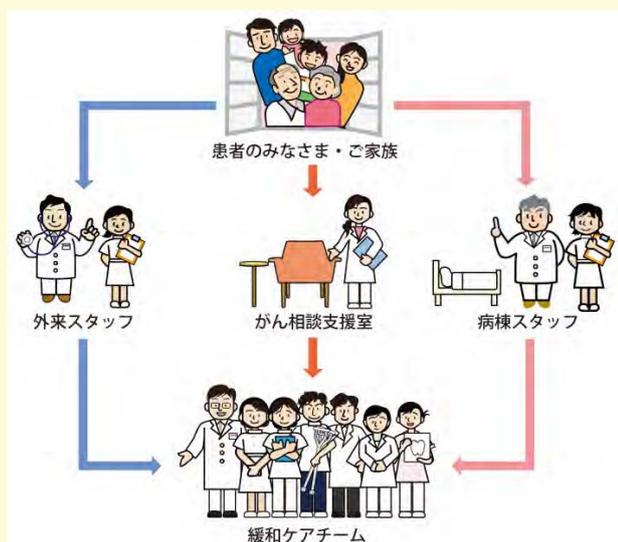
その考えに基づいて、がんなどで治療中の患者のみなさまやご家族が安心して生活を送ることができるように支援するために、当院においては「緩和ケアチーム」がさまざまな活動をしております。

「緩和ケアチーム」のメンバーは、専従医師・がん看護専門看護師・がん疼痛認定看護師・緩和ケア認定看護師・薬剤師・訪問看護師・臨床心理士・ソーシャルワーカー・作業療法士・歯科衛生士などで構成されています。

「緩和ケアチーム」は、治療時期に関わらず、患者のみなさまのからだのつらさ（疼痛・呼吸困難・吐き気など）やこころのつらさ（不安・不眠など）を和らげる治療やケアについてスタッフと一緒に対応します。また患者のみなさまの社会生活やご家族の悩みを含めた包括的なサポートも行います。

ご相談のながれ

緩和ケアについて話を聴きたい、緩和ケアを希望されるときには、まず主治医・看護師（外来・病棟）・がん相談支援室にお尋ねください。



がん相談支援室へのご案内

がん相談支援室へご来室される方は、1-8 総合相談窓口（中央玄関を入れて左側）へお声かけください



〒710-8602
岡山県倉敷市美和1-1-1

(財)倉敷中央病院
総合相談・地域医療センター がん相談支援室

受付：平日9:00～15:00
TEL：086-422-5063
FAX：086-422-5021

発行元：(財)倉敷中央病院 緩和ケアチーム

編集委員長：曾我圭司（医師）

編集委員：石原泰子（がん専門薬剤師）、板谷紀子（ソーシャルワーカー）、井上礼子（看護師長）、
（五十音順）小倉志保（薬剤師）、坂元恵（歯科衛生士）、惣市こずえ（緩和ケア認定看護師）、
原田美雪（緩和ケア認定看護師）